



樹蔭静けさ

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL：0155（37）5501
発行日 令和4年2月28日

学校評価アンケートのご協力ありがとうございました

令和3年度 帯広三条高校 学校評価アンケート(保護者)結果

A:十分(そう思う) B:おおむね十分(そう思う) C:不十分である(あまり思わない)
D:改善を要する(全く思わない) E:よくわからない
(A=4, B=3, C=2, D=1, E=0として集計)

No	評 価 項 目	
1	本校の教育内容は、生徒や保護者の期待や要望に添えている。	3.0
2	生徒の主体的な学びにつながる授業を行い、学力の向上を図っている。	3.0
3	学習と部活動を両立させる適切な指導が行われている。	2.9
4	他を思いやりいじめのない公平公正な行動のできる生徒を育成している。	3.0
5	生徒の主体的な活動を促し、自主自律の態度を養っている。	3.0
6	生徒理解を基に家庭と連携して組織的な生徒指導や生徒相談が行われている。	2.9
7	生徒の進路意識を高め、生徒自らが進路選択できるよう指導している。	3.1
8	ホームページ、学校通信『木蔭静けさ』、学年通信などを活用して、学校の教育活動や情報を積極的に発信している。	3.1
9	健康と安全に関する教育が適切に行われている。	3.0
10	本校に入学させてよかった。	3.4

過日、保護者の方々にメールでお願いした学校評価アンケートの結果をご報告します。これは本校の教育活動について幅広くご意見を伺い、次年度に活かしていこうとするもので、Googleフォームでの回答をお願いしたところですが、事前の周知の不足もあってか回収率が19%にとどまてしまいました。しかしながら、アンケート回答の他に多くの意見も寄せられ大変参考になるものでした。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、結果は右表の通りなのですが、4点満点としての評価平均ですので、概ね良い評価をいただけたものと思っています。しかしながら、2点台の二つの項目「部活と学習の両立」「家庭と連携した指導」について、いくつか意見も寄せられていました。「学校と家庭の連携が不十分で子どもたちが困ることが多い気がする」というものや、制服を含めた校則の問題や管理的な指導になっていないかと疑問を寄せる声もありました。また、模試と部活動の優先順位について問う声も寄せられていました。この結果を先日の職員会議で共有したところです。次年度の課題として位置づけ、今後の取組に生かしていきたいと思えます。

スケート部の挑戦、世界へ

スケート部の3年・笠原光太郎、時安清貴、水戸咲良の3選手がオーストリア・インスブルックで行われたジュニアワールドカップと世界ジュニア選手権大会に出場し、笠原選手がチームパシュートで優勝を果たすなど、三条生が世界を舞台に活躍しました。結果は次のとおりです。

【2021-2022ジュニアワールドカップ最終戦（1月22、23日）】

水戸 咲良：500M 第14位 1000M 第8位
時安 清貴：1000M 第5位 1500M 第7位
笠原光太郎：1500M 第3位 3000M 第5位

【2022世界ジュニア選手権大会（1月28、29、30日）】

水戸 咲良：500M 第20位 1000M 第6位 チームパシュート4位
時安 清貴：1000M 第5位 1500M 第8位
笠原光太郎：1500M 第6位 5000M 第9位 チームパシュート**優勝**

日本チームのコーチとして帯同した後藤教諭は、「世界という舞台に立てたことが大変勉強になりました。今までとは違う流れができていたことを肌で感じる事ができましたし、各選手一人一人の現段階で通用する部分とそうではないものがはっきり見えてきました。彼らは大学に進学してまた世界を目指すこととなりますが、彼らを脅かす選手を育てることが私の役目。またゼロからスタートします！」と力強く答えてくれました。

なお、出場した3人の声は2面『きらり』に掲載しています。ご覧ください。



【会場となったインスブルックの街並み】

十勝管内「北海道学び推進月間」標語入選

令和3年度十勝管内「北海道学び推進月間」標語コンクールに1年小川沙央里さんが入選し、校長から賞状が手渡されました。本校でもこの標語のようにグループ学習等で世界が広がる取組をさらに進めていきたいと思えます。小川さんおめでとうございました。



話し合う 広がる世界 よい学び

書道部と図書館のコラボ企画

図書道展 展示中



図書館では書道部とのコラボでポップを工夫した企画展『図書道展』を展示中です。こういった取組が功を奏し今年度来館者は1日平均24.1人、1日平均貸出数は9.5冊といずれも昨年を上回りました。ぜひまた図書館へ足を運んでください。

第20回 3-3担任・野球部顧問 山本 浩介 教諭

倒れても立ち上がって人生をつくってほしい！

◇人のつながりが大事

私の高校時代は野球に夢中であつという間の3年間でした。先輩や仲間に恵まれて2年の夏に甲子園に出場することができましたが、地に足が着かない状態で、先頭打者に死球を与え何もできないまま敗戦投手となりました。翌年も甲子園を目指したのですが、地区大会で敗退してしまいました。悔しいというより、虚脱感で一杯でした。

大学でも野球部に入るので、そこは部員400人の世界。1年の時に打球を頭に受けてしまって、そこでプレイヤーとしては諦めマネージャーとしてチームを支える側になりました。その関係から4年生の時には日本野球連盟のお手伝いもさせていただきました。そこで知り合った方々とは今もつながっていて、前任校では地域で野球教室を開催していただいたり、色々助けてもらっています。人とのつながりや縁というのは大切だとしみじみ思うところです。

◇「つなぐ」ことを大事にしたい

野球部では年中行事をみんなでやることにしています。先日の節分では私も鬼役になりましたが、生徒はここぞとばかり思いっきり豆をぶつけていました（笑）。こんなことをするのも私は「つないでいくこと」の大切さと、同時に難しさも感じているからです。親から子へ、先輩から後輩へつなげていくべきことはたくさんあると思います。なくしちゃいけないことをなくさないように仕向けることが大切だと思うのです。伝統もその一

つと思っています。

◇コロナ禍での経験を今後の人生の糧に

3年次の生徒は1年の最後からずっとコロナの影響で色々な制約を受けました。そのために貴重な経験の場を奪われてしまったことは本当に残念に思います。その中でなんとか行くことができた見学旅行が一番印象に残っています。マスク越しでのコミュニケーションを強いられた日常にあって、生徒たちの本来の姿を感じることができた大変貴重な機会でした。

コロナに振り回された2年間でしたが、考えようによってはこれもいい経験になるのではないかと考えています。つまり、望んだものがある程度手に入れたり経験できる豊かな世の中に生まれ育った生徒たちが、辛抱したり我慢を強いられることはそれほど今までにはなかったわけで、高校卒業後の人生の中で思い通りにいかない時に、この経験が生きてくのではないかなと思うのです。色々なことに挑戦して、倒れてもまた立ち上がる。そこで必要になる我慢強さをこの3年次生は培ってきたのだから、自信を持って自分の人生をつくってほしいと思っています。



三条高校で輝いている生徒を紹介します。

インタビュー きらり

世界ジュニアスケート出場 水戸咲良さん 時安清貴くん 笠原光太郎くん
高校総体 500m 優勝 阿部心哉くん



水戸さん 時安くん 笠原くん



阿部くん

(写真は十勝毎日新聞社提供)

まずオーストリアで開催された世界ジュニアスケートに参加した3人に振り返ってもらいました。水戸さんは「会場の空気感などが日本の大会とは全く違い、自分自身の成長に繋がる貴重な体験ができた大会でした。満足のいく結果にはなりませんでしたが、トップの選手達を間近で見て、自分に足りないところを見つけることができました。来シーズンも再びこの舞台上で戦えるようにもっと強くなりたいと思いました。今回の大会を経験し、世界で活躍できる選手になりたいという気持ちがより一層強くなりました。目標に向かってこれからも頑張ります。」時安君は「メダルは獲得できませんでしたが、世界ジュニア選手権という初めての舞台上で滑るという貴重な経験をし、メダル以上に大きなものを得ることができたと感じています。今後は、今回の世界ジュニア選手権のリベンジのために、来年に向けてしっかり一から自分自身を見直して行きたいと思います。また、4年後のオリンピック出場を最大の目標として、大学で競技力向上に励みたいと思います。」そして、笠原君は「初めての国際大会を経験できたことは自分自身にとって非常に大きな経験でした。時差や時差調整、初めて会うメンバー・スタッフもいて不安が大きかったです。Team Japanとして全力を尽くすことができました。結果的にチームバシウトで世界一を獲得することができましたが、個人の力で世界と戦うには差があることを痛感しました。今後は、現在よりも一回りも二回りも強くなりたいと思います。そして、世界ジュニアに出場して個人種目で世界一を目指して頑張りたいです。」とそれぞれ次の目標をあげられました。

また、高校総体500mで見事優勝した阿部くんは「納得できるレースができて嬉しかったです。三条高校でスケートを続けて良かったですし、入学したときより成長して卒業を迎えることができたことに達成感があります。」と答え、さらに「来シーズンは全日本ジュニアで優勝し、世界ジュニアに参加すること、将来的には2026年のイタリアのオリンピックに出場してメダルをとりたいと思います。」と力強く目標を語ってくれました。

4人も三条高校での3年間を振り返って、それぞれ成長できた喜びと感謝を口にしていたのですが、時安君は「お世話になったすべての人達には結果を残すことで恩返しができ、三条高校ではやり残したことはないと思えるくらい清々しい気持ちで一杯です。」と述べていました。これからも三条魂で世界に羽ばたいてほしいと思います。益々の活躍を期待しています！